

植物寄生性	内部寄生	ネコブ線虫	ネグサレ線虫
		そ の 他	
	外部寄生	スパイラルネマ	63%
		ダダネマ	20%

### む す び

第I表は8月20日現在の苗高について検討したもの

である。筆者は昭和35年よりモリシマアカシヤの育苗試験を行つて来たが、本試験の対照区程度の生育をもつてモリシマアカシヤの生長速度と考えていたが、本試験の結果、土壤線虫の被害が如何に大きいかを痛感し、今後の林業用苗木生産技術の一つとして適確な土壤線虫防除方法を確立せねばならないと考える。

なお処理後の線虫相の変化については目下とりまとめ中である。

## 40. 2, 3の線虫による被害苗の徴候について

福岡県林・試・橋 本 平 一

福岡県内の生育障害苗畑には線虫による被害がかなり分布していることが明らかになった。このことは、山林用苗畑では軽視出来ない問題である。このような苗畑の生育障害の原因には多くの因子(立枯病, B・H・C・の葉害, 過湿, 其の他)があつて、線虫の加害による徴候と混同されやすいむきがある。このような見地から個々の線虫についての Typical な徴候をつかむために、県下で検出される代表的な線虫3種について、圃場観察と人工接種により検討した。

### 1. 方 法

#### 接種試験

a) サツマイモネコブセンチュウ (*Meloidogyne in-cognita* var *acrita*) の場合

セメント製井戸側(径60×深さ50cm)に蒸気殺菌した土壌をつめ、その中にモリシマ被害苗30本の Gall を接種して、直ちにスギを播種した。

b) ネグサレセンチュウ (*Pratylenchus* sp) の場合

被害地より採取したスギ苗の根を流水で洗い外部寄生している線虫を充分におとした後ち、約200本程度の根部を上記井戸側内に接種した。

c) スタントセンチュウ (*Tylenchorliynchus claytoni*) の場合。

被害地より採取したスギ苗を水中に浸漬して、その中に落下した線虫を接種した。採取苗は約200本で、スタントネマトーダが全線虫の95%程度である。

### 2. 被 害 徴 候

a) サツマイモネコブセンチュウ

発芽後1ヶ月過ぎた頃より根の先端に僅かな肥大部

(Gall) が認められる。漸次 Gall は大きくなり細根の少ないゴボ状の根となる。Gall は樹種により大きさが異なり、キリ>アカシア類>マツ>スギ $\geq$ ヒノキの順となるようである。特にアカシアでは珠数状に Gall が連らなつて典型的な徴候を呈する(第1, 2 図)

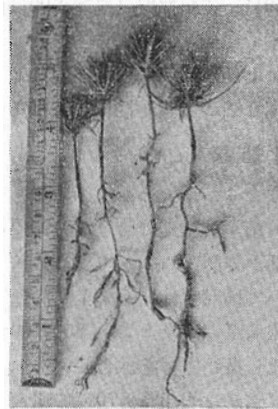
b) ネグサレセンチュウ

外観には全く特徴が表れないが、腐敗根が多く細根が少なく、変色部にはネグサレセンチュウが侵入している。(第3 図)

c) スタントネマトーダこの線虫の多い苗畑では細根の根冠が鈍くなり、傷の多い萎縮した根系の苗木が多く、根の伸長が著しく不良で、加害は褐変する。

細根は全体的に健全根より太く、ネブクレ症状を呈する。根の生長点附近には線虫塊(線虫の集団)が認められる。(第4 図)

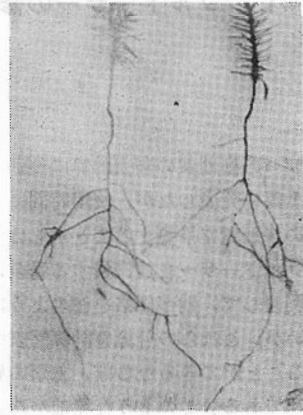
第1 図 クロマツの被害苗(ネコブ線虫)



第2図 モリシマアカシア被害苗 (ネコブ線虫)



第3図 スギの被害苗 (ネクサレ線虫)



第4図 スギの被害苗 (スタントネマトーダ)

